

〔今昔物語 三十一〕大和國箸墓本縁語第卅四

今昔□□天皇ト申ケル帝一人ノ娘御ケリ、○中此娘未ダ娶給フ事モ无キ間ニ、誰トモ不知ヌ人

ノ極ク氣高キ、娘ノ御許ニ忍テ來テ云ク、○中我レハ此ノ近キ邊ニ侍ル也、我ガ體ヲ見ムト思サ

バ、明日其ノ持給ヘル櫛ノ箱ノ中ニ有ル油壺ノ中ヲ見給へ、○中其ノ後、女櫛ノ箱開テ油壺ノ中

ヲ見給フニ、壺ノ内ニ動ク者アリ、○下

〔明月記〕天福元年七月十六日戊申、未斜、自賢家宅小兒來、○中即令乘車、例小兒相具物等懸子一入

油壺等、

〔嫩入記〕よめ入の條々

一あぶらつぼはみのつぼがよく、みのつぼは、みの、國より出るものなり、

〔婚禮道具諸器形寸法書 地〕油壺 高五寸、口徑二寸一分、蓋厚サ三分五リソ、

油壺箱 高六寸、巾五寸三分、

油筒

〔婚禮道具諸器形寸法書 地〕油筒一對 上下ノトコロエ金物ヲトリ、後ロノ方ニ釵ヲ打、紅ノ緒ヲ

附ル也、緒ヲナニシテカクル也、口徑二寸三分、又二寸二分、長一尺二寸、

〔嬉遊笑覽 容儀 下〕古へは、綿に香油を漬し置て用ゆるのみなり、後には是を竹筒に貯へけるにや、宗鑑

油桶

〔女重寶記 五〕女用器財油桶あぶらぶ

〔婚禮道具諸器形寸法書 地〕油桶一對 高二寸四分、徑九分五リソ、

油柄杓 徑五分、高五分、柄二寸一分、

髮油商

〔我衣〕寶永ヨリ、油元結ノ見世多ク出タリ、

〔寛天見聞記〕菊井、松本、澤村、よし屋、皆古き髮油見世なり、